



Dynamic Search: INPADOC/Family and Legal Status, JAPIO -Patent Abstracts of Japan, Derwent World Patents Index

Records for: PN=JP 75021382

save as alert...

save strategy only...

Output ?

Format: Long

Output as: Browser

display / send

Modify ?

refine search

back to picklist

select
all none

Records 1 of 2 In long Format

☐ 1. 4/34/1 (Item 1 from file: 351)

001405257

WPI ACC No: 1975-54964W/ 197533

Coating agent for protecting plants in agriculture and horticulture - obtd. by dispersing solid paraffin in water using dispersing agent

Patent Assignee: YAMAGISHI G (YAMA-I)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 75021382	B	19750722				197533 B

Priority Applications (No Type Date): JP 6910093 A 19690213

Abstract (Basic): JP 75021382 B

Method comprises dispersing a solid paraffin in water using a dispersing agent e.g. ammonium salt of fatty acid or amine salt of fatty acid. The coating agent is useful for protecting seedlings from frost.

Derwent Class: C03; G02; P13

International Patent Class (Additional): A01G-013/00

Derwent WPI (Dialog® File 351): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

④ Int. Cl.²
A 01 G 13/00

⑤ 日本分類
2 B 1

⑥ 日本国特許庁

⑦ 特許出願公告

昭50-21382

特 許 公 報

⑧ 公告 昭和50年(1975)7月22日

⑨ 出願番号 6852-21

⑩ 発明の数 1

(全 2 頁)

1

⑪ 農業用被膜剤

⑫ 特 願 昭44-10093

⑬ 出 願 昭44(1969)2月13日

⑭ 発 明 者 出願人と同じ

⑮ 出 願 人 山岸伍郎

三鷹市北野2の4の26

⑯ 代 理 人 弁護士 野本康造

発明の詳細な説明

本発明は農業用被膜剤に関し、その目的は農作物、園芸作物、樹木等の植物体の表面に被膜を施し、これによつて諸種の農業の展着を確実にするほか、植物体に寄生上無害な被膜を施し、これによつて植物体よりの過量の蒸散を一時的に抑制し得る被膜剤を得ることにある。

一般に農業を植物体に施用するに当つては所謂展着剤が使用されているが従来用いられていた展着剤は多くは親水性コロイド物質、又は界面活性物質よりなり、これらの物質は微粒子状乃至溶液状の農業を植物体に展着せしめ、又は油状農業を水中に乳化分散せしめ、しかも植物体表面を覆う膜質物に対する濡れ性を向上させるのですぐれた展着剤と認められていた。

ところが、これら展着剤の親水性はこれを被膜剤として使用するとき、風雨に原因する流亡を意味するもので従来、既知の展着剤を直ちに被膜剤とすることは不可能である。

本発明者は、従来の展着剤に比しその被膜形成性が強く、しかもその対風雨性の大きい被膜剤について鋭意研究の結果、安定にして植生上無害の被膜剤の製造に成功し本発明を完成した。

即ち、本発明被膜剤は分散薬として水を使用し、分散被膜物質として固形パラフィンを使用するもので、これに水分散性と被膜安定性を与える為に分散剤を使用するものである。

本発明において使用し得る揮散によつて分散機

2

能を失う乳化剤としては脂肪酸アンモニウム、アミン脂肪酸塩を使用し得るほか、これらの乳化剤と共に、又は無しでゼラチン、アルブミン、カゼイン等の蛋白質類、アラビアゴム、トラガカント等の植物ゴム質、アルギン酸増、レシチン、サポニン、カルボキシメチルセルローズ等の天然又は加工乳化剤、脂肪酸モノグリセリド、ソルビタン脂肪酸エステル等の加工油を使用することもできる。

10 本発明の実施に当つては脂肪酸アンモニウム、アミン脂肪酸塩が最も好適であつて、これを用いて本発明被膜剤を製造するには最高級脂肪酸に適量の固形パラフィンを均一に加温溶解し、これを加温しつつアンモニア水を添加しパラフィン全量を脂肪酸アンモニウム中に分散せしめるものである。かくて得られる水性被膜剤はそのまゝ蒸散防止剤として直ちに使用し得べく、又はこれを可及的低温に貯え同一的に使用することもできる。又、アミン脂肪酸塩を利用するには上記アンモニア水の代りに第四級アンモニウム塩基、トリエタノールアミン、モルホリン等をそのまゝ、又は溶液として添加すればよい。

次に実施例を説明する。

実施例 1

固形パラフィン80gとステアリン酸20gとを加温混和し、これを1ℓの水に投じ温時混攪しつつ20%アンモニア水10ccを加える。冷却後必要に応じて石灰乳を加え得られる乳液を蒸散防止用被膜剤として杉の苗に散布する。処理せられた杉苗は12月～3月の乾燥期においてもよく乾燥と季節風に耐え高い活性率を示したが、未処理のものはその半数以上が枯死した。

なお、上記アンモニア水の代りにその一部又は全部を5%第四アンモニウム塩基、又はトリエタノールアミンもしくはモルホリン等の有機アミンの溶液の数ccを用いても同様の効果を得た。以上、本発明においては脂肪酸アンモニウムを

(2)

特公 昭50-21382

3

4

を用いることによつて乳化分散の至難とされてい
た固形パラフィンの乳化に成功したものであつて、
かくして得られる乳剤分散液は、アンモニア、ア
ミン等は急速に揮散し去るので、パラフィンを主
とする薄膜が葉面を被覆するので、風雨に対して
きわめて安定な被膜が得られるのである。

④特許請求の範囲

1 固形パラフィンを揮散によつて分散機能を失

う分散剤を用いて水中に分散せしめた農業用安定
被膜剤

⑤引用文献

特 公 昭26-754

特 公 昭39-8250

特 公 昭40-8196